中部地区研究会報告

岡　戸　浩　子

2012年10月28日(日)に名城大学名駅サテライトにて中部地区研究会が開催された。研究会プログラムは2つの小講演とシンポジウムによって構成されている。

小講演では、まず森住 衛氏（本学会会長、桜美林大学）が、日本の異言語教育政策の現状と課題について述べられ、本研究会での議論を深める上での有益な示唆を得ることができた。次に、大木 充氏（京都大学名誉教授）は、「グローバル人材育成戦略」の視点から「大学まで」と「大学での」外国語教育について着目しておくべき問題点を指摘され、また異文化間能力の養成に重点を置く言語教育の今後について述べられた。

「大学における外国語教育の現状と課題－『学生』と『地域』のニーズの視点から」と題されたシンポジウムには、柿原武史氏（南山大学、スペイン語教育）、樋口謙一郎氏（椙山女学園大学、韓国・朝鮮語教育）、高阪香津美氏（愛知県立大学、ポルトガル語教育）がパネラーとして参加された。パネラーからは、地域社会の多様な言語ニーズに対して当該言語を学ぼうとする姿勢の欠如、英語以外の言語教員の意識改革、言語文化教育の専門家養成の必要性、および教材開発への投資等の問題点や課題が提示された。また、英語以外の言語科目の受講者および卒業者によるコメント等から読み取れる学生および地域のニーズが紹介された。質疑応答を含めて様々な議論がなされた有意義なシンポジウムとなった。

今回の中部地区研究会では主として大学の「英語」および「英語以外の言語」教育の現状と課題について様々な意見の交換ができたと言えるだろう。各学校・大学が置かれた社会的役割、地域特性などをも踏まえた上で言語教育政策を構築していく必要とその可能性が改めて認識されたのではないかと思われる。

（名城大学）